

様式7

「学校」部門

河川基金助成事業

「守れ！ふるさとのヒダサンショウウオ」 報告書

助成番号：2020-7210-003

岐阜県山県市立富岡小学校

校長 岸 正法

2020 年度

助成番号	助成事業名		学校名										
2020-7210-003	守れ！ふるさとのヒダサンショウウオ		山県市立富岡小学校										
校長名	岸 正法		担当教諭名	福田 英治									
過去の助成実績	なし <u>あり</u> [助成番号：2019-7210-006 助成事業名：守れ！ふるさとのヒダサンショウウオ]												
キーワード	ヒダサンショウウオ、飼育繁殖、生態調査、野外調査、放流												
対象児童生徒	高校生（年 名） 中学生（年 名） ☒ 小学生（4年1名、6年1名）												
対象河川名	鳥羽川	活動場所の指定状況	<u>なし</u> 子どもの水辺 水辺の楽校										
年間学習計画（シラバス）における本助成事業の位置づけ													
テーマ：守れ！ふるさとのヒダサンショウウオ ねらい：ヒダサンショウウオの生態調査と保護活動 評価の観点：自主性：「気づき、考え、守り育てる」 活動時期：毎週土曜日 8：00～12：00（年 50 回×4 時間＝200 時間）部活動として年中活動している。													
活動形態	総合的な学習の時間	各教科学習（ ）	各教科学習（ ）	学校行事	<u>その他</u> （生物部）	合計							
上記の活動時間数	時間	時間	時間	時間	200時間	200時間							
支援者等（複数記入可）													
<u>保護者</u>	外部小学校	外部中学校	<u>外部高校</u>	<u>外部大学</u>	<u>市民団体</u>	<u>専門家等</u>							
河川管理者	<u>行政機関</u> （博物館、資料館）等		関係団体（漁協、農協）等		企業	その他							
支援概要	保護者：同行／高校：岐阜高校自然科学部と連携／大学：京都大学西川研究室と連携、愛知教育大島田知彦先生／市民団体発表の場：木曽三川流域エコネット、岐阜市環境課／専門家等：建設環境研究所見澤康充さん／行政機関：アクア・トトぎふと連携、山県市教育委員会												
活動成果	発表形態			成果作品									
	学級単位	学年単位	学校全体	・自然科学観察コンクール3等賞（全国4位）									
	<u>対外発表</u> ：木曽三川流域エコネット（オンライン 1/30）			・新聞（毎日新聞、中日新聞）									
安全対策に関する課題													
毎週土曜日の野外調査は、学校より 5 km ほど離れた溪流なので、保護者による送迎が必要。また、登山と溪流登りなので、安全のため保護者同伴で行っている。また、熊の生息地であるので、熊よけの鈴を持参するようにしている。5～11 月はヤマビルが大量に発生するので、環境に配慮された虫よけスプレーを長靴に散布する。													
活動の成果と今後の課題・展開													
1. 飼育産卵：サンショウウオには絶滅危惧種も多く、個体数不明（学会では、100 頭前後と言われている）の希少種アマクササンショウウオ（天草諸島）がいる。その研究をされている理学博士の先生から、「アマクササンショウウオも溪流に棲んでいる。繁殖のために、みなさんが開発した産卵水槽を使わせていただきたい。」と申し出があった。このように、私たちの研究が希少種の「種の保存」や「繁殖」に役立つと思うと嬉しい。 2. 野外産卵の環境調査：「ヒダサンショウウオは、わき水のでる場所に産卵する」という仮説は、瓦の下にオス2匹と別の瓦の下に卵を持ったメス1匹が確認されたものの、産卵は確認できなかった。「私たちが見つけた卵のうは全体の1%ほど、残りの99%はわき水で産卵している。」と考え、現在も調査中である。産卵場所を保全することで、ヒダサンショウウオの減少をくい止めることができると思う。 3. 現在、「わき水のある場所で集団産卵が行われる。」という仮説を立て、水槽の中にわき水を作り実験したところ2月下旬に卵嚢を確認した。砂利の中に通道ができ、砂利を移動させ産卵場所（空間）を作ったことが分かった。 4. 第61回自然科学観察コンクールに応募したところ、3等賞（全国4位）を受賞した。※今年度はコロナ禍ということで日本科学未来館での表彰式は中止となった。													
活動内容と実施時期（主な活動を2つのみ記入）													
	部門	大分類	中分類	小分類	実施時期								
データベースに登録する活動分野	学校部門	教育活動	生物調査	系	生物と環境	1 年中（土曜日）							
			生物調査	系	その他（繁殖）	12～6 月（毎日）							

※データベースに登録する活動分野は、本冊子 P. 46 の活動分野一覧表から代表的なものを2つ記入して下さい

研修報告書

助成番号	2020-7210-003	学校名	山県市立富岡小学校
助成事業名	守れ！ふるさとのヒダサンショウウオ		
日付	① 10月28日(水) ② 10月29日(木)	時間	① 13:30～18:00 ② 13:30～17:45
場所(会場)	オンラインにて開催	主催者名	公益社団法人 国土緑化推進機構
研修・講演名	研修：「森林環境教育・森林 ESD」「緑の少年団」推進全国セミナー 講演名：一学童期と幼児期が連動した活動促進の仕組みづくりを考えるー		
参加者名	担当： 生物部顧問	氏名：	福田 英治
参加目標	野外調査に通っているヒダサンショウウオが棲んでいる山は、自然が豊かな森であることが分かってきた。また、ヒダサンショウウオは準絶滅危惧種であり、扱いにも十分注意しなくてはならない。そこで、森林環境教育の面から、ヒダサンショウウオについて考えるよい機会と考え受講した。		
研修内容	新たな「学習指導要領」や「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」等に対応させて、「森林環境教育・森林 ESD」や「森と自然を活用した保育・幼児教育」、「緑の少年団」を、学童期と幼児期において効果的に普及・定着させるために、都道府県レベル・市町村レベルの支援体制のあり方や、指導者育成、プログラム等の改善・発展方策等について、先進事例に学ぶ公益社団法人 国土緑化推進機構の「学童期と幼児期が連動した活動促進の仕組みづくり」を考える。		
感想	昨年度の全国河川教育実践事例発表会は、河川環境教育の推進セミナーであったが、今回は「森林環境教育・森林 ESD」「緑の少年団」推進セミナーである。参加目的の解決に繋がる内容ではなかったが、新しい知識を増やすことができた。 森とふれあいながら学ぶ点では、毎週土曜日に溪流で野外調査を行っている私たちも同様、ヒダサンショウウオを通して森林環境教育を学んでいる。山の気温、山の風、山の匂い、山の音、山の光、山の動植物に囲まれながら調査を行っていること自体が、森林環境教育の体験そのものである。行く度に、新しい体験と発見、そして感動がある。 中には、「学習指導要領」に適しているかどうかとか、遊びになってしまい「活動あって学び無し」とならないか、心配される方がいらっしゃると思います。 私の今までの経験では、体験した全員の子どもに「学び」がありました。大人が考えている以上に、子どもたちは多くを学んでいます。「まずは、実践すること」が、重要だと考えています。 受講の中で、このようなメールを送ったところ、都道府県レベル・市町村レベルの指導者の方から、「やる気が出てきた。」という意見を多くいただきました。研修内容には、少し沿わない意見（内容）でしたが、みなさんにやる気を持っていただいたことはよかったと思っています。		

その他 資料（中日新聞）

2021年03月04日（木曜日） 中日新聞 11版 00 朝刊岐阜近郊版 18ページ